

地方創生カレッジ

—大学生ボランティアによる日本文化遺産プロジェクトの実践—

小泉 裕子（初等教育学科・教授）・松田 広則（児童学科・教授）
飯田 篤司（教育学科・教授）・柴村 抄織（教育学科・教授）
杉山 勇人（初等教育学科・准教授）

1. 研究の目的

(1) 大学生ボランティアによる地方創生カレッジの提案

我が国は人口減少社会の加速、少子高齢化の加速等の中で、施策の一環として「地方創生」の充実・強化が推進されている。地方創生の取り組みは、持続性のある取り組みを長期的に行うだけでなく、一刻の猶予もないほど具体性を持った提案が望まれているところである。

そのような中で鎌倉市は、平成30年にSDGs未来都市・自治体モデル事業（全国で10箇所）の一つに選ばれ、鎌倉の歴史や文化を大切にしながら、新しい時代に求められる取り組みに挑戦する流れにある。

一方、神奈川県内でも特色ある人材育成モデルを有し、各領域に専門性を持った人材育成として社会的に評価されている鎌倉女子大学は、鎌倉市内の大学として、地方創生における中心的人材輩出の期待も大きい。

そこで、本研究では、本学の学生ボランティアを地方創生の担い手として育成し、地域の小学生に日本文化の面白さや良さを伝承するための「地方創生カレッジ」を構想する。

鎌倉女子大学は、正課における人材育成モデルにおいて県内でも突出した成果を上げているが、同時に正課外において地方創生の一助となるべく具体的な取り組みにも成果を蓄積してきた。

1) 「かまくらママ&パパ'Sカレッジ」の成果

たとえば、児童学部と短期大学部の学生ボランティアによる子育て支援「かまくらママ&パパ'sカレッジ」などである。平成18年以降、鎌倉市子どもみらい部と母親グループ懇談会とともに、地域子育て支援の取り組みが継続されている。ここでの保育ボランティアの取り組みを企画・実践する学生達のプロジェクト学習は、教師・保育者養成の正課外カリキュラムとして14年にわたる成果を上げてきた。

この成果の一つには、プロジェクトに参加した学生達に芽生える「鎌倉への親しみ、関心」である。鎌倉の子育て家族と直接ふれあい、現状理解を通して、鎌倉市の子育て事情を盛り上げようとする機運が高まり、鎌倉市で保育職に就きたい、子育てをしたいと思う気持ち向上している。これこそ、内閣府の言う、大学による地域に根付いた実践的人材育成のモデルプランの実践であり、「地方創生人材プラン第1弾」と言える。

2) 「放課後かまくらっ子における日本文化遺産プロジェクト」の展望

本研究での「大学生ボランティアによる日本文化遺産プロジェクトの実践」は、鎌倉女子大学における「地方創生人材育成プラン」の第2弾と考えている。

大学生ボランティアによる「日本文化伝承プロジェクトの実践」は、地域創生モデルとして以下の二つの目的を掲げることとする。

① 鎌倉で学ぶ大学生の地方創生意識の醸成

一つは、鎌倉で学ぶ大学生達自身のための地方創生モデルとしての意義である。

このプロジェクトに参加することで、大学生ボランティアは、専門知識を有する大学教員の指導を受けながら、学校や家庭では得られない日本文化の体験プロジェクト（鎌倉の歴史にちなんだ毛筆を学び体験する）を計画、実践するプロジェクトを通して、「鎌倉という地域」へ関心を払い、子ども達とのつながりを意識し、地域性への愛着や親しみを持つなど「地方創生につながる」意識の向上を図ることを目的とする研究である。

② 放課後かまくらっ子に集う子ども達の「地域への親しみ観」の醸成

もう一つは、鎌倉市の「放課後かまくらっ子」に集う子ども達のための地方創生モデルとしての意義である。

放課後かまくらっ子とは、全ての児童が放課後の時間を安全・安心に過ごすことができ、多様な体験・活動を行うことができる事業として、アフタースクール（放課後子ども教室）と学童保育（子どもの家）を一体的に実施するもので、国が示している「放課後子ども総合プラン」の鎌倉版と言われるものである。多様な体験活動は、様々な運営事業者や放課後支援員等により計画・提供され、既存の学校教育とは異なる体験活動である。

本研究では、鎌倉の大学生ボランティアが関与し計画・実践される『鎌倉文化を子どもに伝えよう』という体験活動に参加することを契機に、大学生とのつながりを通して、鎌倉という地域性や伝統的な文化の存在に気づくと共に、居住する鎌倉への親しみや愛着を持ち、地方創生への意識を醸成することを目的とする研究である。

2. 研究の方法

以上のような目的を掲げ、鎌倉市子どもみらい部青少年課管轄の「放課後かまくらっ子」における小学校の活動プログラムと連携し、進めていく。

本研究では、大学生が地方創生のためにできるプロジェクトとして、大学の専門教員の指導・助言を受けながら、鎌倉という歴史ある地域の風土に触れる体験や、鎌倉に関連する毛筆文化・日本文化等の体験活動を計画し、放課後のプランとして実行していく。

地方創生モデルとして図1に示す以下の体制でアクション・リサーチを展開して行く。



図1

3. 研究の内容（2019年度報告）

この研究プロジェクトは、2019年4月から2021年3月までの3年間にわたる地方創生カレッジである。2019年度の研究は、地方創生プロジェクトとしては、いわば実践の成果を上げるための準備期間として位置づけ、計画を図った。

【2019年度の研究計画】—地方創生カレッジ体制作り立ち上げから、学生指導まで—

①初年度は、地方創生カレッジの体制作りを図るため、鎌倉市こども部青少年課、鎌倉市教育委員会等、自治体関連部署と連携を図り協働プロジェクトを立ち上げる。

②「学生による日本文化伝承プロジェクトを実現するカリキュラムを構築するため、我が国で日本文化の伝統を育み、また、大学生による地方創生活動が盛んである京都市の事例に注目し現地調査を行い、地方創生カレッジの骨子作成、プロジェクト全体のカリキュラム構築のための示唆を得る。

特に、鎌倉市の放課後児童健全育成事業である「かまくらっ子」との協働を推進して行く。「かまくらっ子」は、親の就労などで日中在宅していない児童を対象とする通常の学童保育事業と、児童なら誰でも利用できる「アフタースクール事業」を融合した鎌倉市独自の施策である。実施場所は小学校内の施設や校庭、体育館などで夕方まで子どもたちの安全な居場所となるべく環境の整ったところである。その中で大きな特徴は、開催されるプログラムに地域の人や支援員等、様々な大人の人たちが参加し、学童の保育活動を支援することである。この既存のプログラムに、本プロジェクト（日本文化伝承「鎌倉文化を子どもに伝えよう」（仮称））が参加していく予定である。

③地方創生の担い手となる学生ボランティアを育成するため、2019年秋 Semester 内で、正課外講座（方法はママ&パパ'sカレッジの学生指導に倣う）を実施（小泉・松田担当）、ボランティア学生が主体となって「日本文化伝承「鎌倉文化を子どもに伝えよう」（仮称）」を考案するなどのアクション・リサーチの準備を行う。アクション・リサーチは、2020年秋 Semester から半年間始動する予定である（柴村・杉山担当）。

4. 研究の現状報告

(1) 京都調査

2019年度研究計画の②に掲げた様に、本研究の先行事例として参考となる2つの京都調査を実施した。

1) 京都市児童館連盟でのヒアリング調査

2019年9月2日、京都市児童館連盟の統括監國重先生、及び事務局で児童指導員の潮田真一先生との面談において、地方創生における大学生ボランティアの取り組み状況や、児童館連盟における学童保育の人材育成についてのヒアリング調査を実施した。（図2）

京都市内に存在する児童館は、全国の児童館連盟でも突出した活動を展開していることで評価されている。それぞれの児童館で、学童保育に携わる人材を募集していることが分かった。

また、京都市内の大学には、学童保育のボランティアに積極的に貢献するが学生ボランティアが多く、大学のゼミ単位で各児童館と連携をし、ボランティアの人材募集は積極的に推進していることが分かった。

例を挙げると、陵ヶ岡児童館では、「陵ヶ岡っ子フレンズ」として、大学生のボランティアをポスターにより独自に募集していた。(図3)

(学生ボランティア＝「陵ヶ岡っ子フレンズ」への周知事項)

陵ヶ岡っ子フレンズとは、児童館で子供たちと遊んだり、学習支援等を通して繋がりを広げようというものです。

「ボランティア活動をしてみませんか」というキャッチフレーズの下、大学生ボランティアを「陵ヶ岡っ子フレンズ」と称してその役割を提示し、子どもの放課後の生活を支援する重要な人材として積極的に活用していることが分かる。本研究の学生ボランティアの育成カリキュラムに参考となる貴重な事例となった。



図2

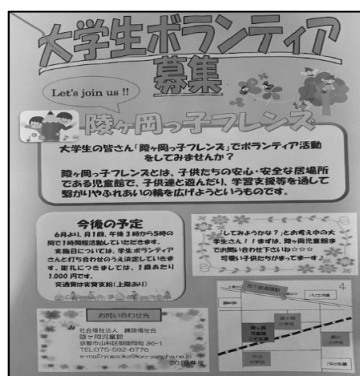


図3

2) 京都女子大学地域連携研究センター調査

2019年9月3日に、京都女子大学地域連携研究センターのセンター長である竹安先生、事務局小椋先生、中野先生、岡崎先生に面談し、京都女子大学地域連携研究の包括的取り組み及び、地方創生における大学生ボランティアの取り組み例についてヒヤリング調査を行った。

本センターでは、地域との連携活動を多種多様に実施する中で、「地域との連携活動」例として、大学生が積極的に参加している2事例をお聞きした。「祇園新橋まちづくり部」との連携で「まちづくりキャンペーン」に参加している事例、もう一つは、児童学科の松崎ゼミによる人形劇団が、地域の幼稚園や保育所、児童館、自治会の夏祭り参加している事例であり、京都女子大学生が地方創生の一助となる活動を知ることが出来た。

(2) 鎌倉市との「放課後かまくらっ子」と大学生ボランティアの連携協定の締結

本研究で計画している「大学生ボランティアによる日本文化伝承プロジェクトの実践」の取り組みが、鎌倉市子ども部青少年課の運営する「放課後かまくらっ子」の活動を支援する取り組みとして承認され、2019年11月28日、鎌倉市役所において、連携協定を締結した。これに基づいて本研究が鎌倉市と正式な連携を果たし、『地方創生カレッジ-大学生ボランティアによる日本文化伝承プロジェクトの実践-』を実施する体制が整い、2020年1月には、このプロジェクトに参加する大学生・短期大学生を募集するところである。